A07 家屋内外におけるヒトスジシマカの時間的、空間的分布比嘉由紀子[○]・津田良夫・都野展子・高木正洋（長大・熱研）Temporal and spatial distribution of *Aedes albopictus* inside and outside a house in Nagasaki.

Higa, Y., Tsuda, Y., Tuno, N. and Takagi, M.

ヒトスジシマカはネッタイシマカと異なり、屋外に多く分布し、屋内にあまり侵入しないと言われる。この違いは両種の媒介能を評価する上で重要である。今回はヒトスジシマカの家屋内外における時間的、空間的分布についてドライアイストラップによるモニタリングを行った。また、野外採集ヒトスジシマカの Mark-release-recapture 実験を行い、屋内、屋外における分布の時間的変化を調べた。

A08 中国海南島におけるネッタイシマカの標識再捕獲実験津田良夫^{○1}・高木正洋¹・王善青²・王志光²・湯林華³（¹長崎大・熱研・生物環境、²海南省熱帯病防治研究所・中国、³寄生虫病研究所・中国）Mark-release-recapture experiment of *Aedes aegypti* in Hainan island, China

Tsuda, Y., Takagi, M., Wang, S., Wang, Z. and Tang, L.

デング熱を媒介するネッタイシマカ、*Aedes aegypti*、の分散と日当たり生残率を調査するために、中国海南省澄邁県で標識再捕獲実験を行った。ゴム林に隣接する戸数20戸の小さな村で、村の中央及び東端の2ヶ所からそれぞれ3009、3076匹の成虫を放逐した。放逐後6日間、毎日午前7時半から9時半にかけて10分間の人囀法によって、全ての家で再捕獲を行った。再捕獲総数は中央及び東端から放逐された個体群でそれぞれ、106(3.52%)、84(2.73%)であった。2ヶ所から放逐された成虫の分散の様子は基本的には同じで、放逐地点に最も近い家にまず侵入し、その後の時間経過と共に同心円状に分散していったと考えられる。村の東端から放逐された個体もほとんどは人家周辺に留まり、周囲のゴム林へ分散していった個体はわずかであったと思われる。放逐後の日数の経過に伴う再捕獲数の変化を対数回帰分析し、日当たり生残率を推定したところ 0.763 ($r = -0.811$)、0.813 ($r = -0.770$) という値が得られた。